

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『本物宿せ！本宿小』
 ◇ 主体的に探究し、考える力を育てます。(知)
 ◇ 自分や相手のよさを見つけ、多様性を尊重し合う心を育てます。(徳)
 ◇ 体を動かすことを楽しみ、健康・体力を高めようとする態度を養います。(体)
 ◇ 地域の人から学び、わがまちをよりよくしようとする心を育てます。(公)
 ◇ 夢や目標をもって、持続可能な社会を創造しようとする態度を養います。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

<自分づくりに関する力>
(自分自身を高めていく力)

課題を設定する力
調べたり試したりしてやってみようとする力
他者と関わりながら解決しようとする態度
多様性を認めようとする態度

中期取組目標

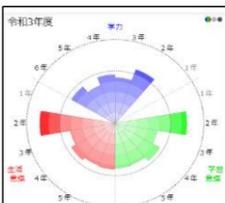
家庭・地域・諸機関と連携・協働したり、情報機器を活用したりして、主体的・対話的で深い学びを目指します。
 ・本物体験とICT活用を充実させ、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を育てます。
 ・学級活動や縦割り活動、道徳・人権教育を充実させ、多様な他者と自己を尊重する心を育みます。
 ・健康の大切さを学び、主体的に運動し、生活習慣を整えようとする態度を養います。
 ・保護者・地域・諸機関・ボランティアとの連携・協働をより充実させ、主体的・対話的に学ぶ態度を養います。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①児童が自ら問いを見つけ、主体的に課題解決を図りながら学習するための授業づくり、ICTの活用を核に授業改善を行う。②学年に応じた「育てたい資質・能力」を明確にした授業づくりをする。
担当	校内研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)児童の実態<学力>
 ・横浜市学力学習状況調査の調査において、第2学年を除き、どの学年も学力・生活意識・学習意識が横浜市平均を下回っている。



(2)これまでの本校の取組状況
 ・令和元年度までは算数科を、令和2年度からは各教科・領域の「カリづくり」を重点研で行ってきた。授業公開も合わせて行い、学力向上に向けての取組の成果を共有することができた。

今年度の目標

児童が主体的に学び続けられる授業づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

①「スーパー学年研」として、あるべき姿の学年研を目指す。
 ・教材研究と個に応じた指導(児童理解)を充実させ、魅力ある授業づくりに努め、各学年で目指したい資質・能力の育成を図る。
 ② ICTを活かした学習について研修を充実させる。
 ・それにより、児童が自ら問い見つけたり、進んで課題解決を図ったりすることができるようにする。
 ③ 本物体験(身に付けた能力を発揮する場面、魅力ある人材、地域の材との関わりを密にする)を意図的に教育課程に組み込む。
 ・それにより、進んで課題解決を図ったり学習意識を高めたりすることができるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	「居心地の良い学校づくり」を目指し、①横浜指導プログラムを定期的に取り入れ、自他のよさを感じる心を育てる。②人権教育の充実を図る③子どもたちがSOSを出せているかなど、個々の児童の様子を丁寧にとらえる。
担当	児童理解・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
 ○学校のきまりを守って生活しようという気持ちをもつ児童は多い。
 ○校内や、登下校時の挨拶や地域の方への挨拶には消極的である。
 ○自己有用感の低い児童、傷つきやすい児童が各クラスにいる。(YPアセスメントより)
 ○たてわり活動や集団登校班で異学年との交流があり、高学年が育つ仕組みがある。

(2)これまでの学校の取組状況
 ○学校生活についてのアンケートを年2回行い、学級や児童の多面的な理解につなげた。
 ○きいて、きいて月間を設定し、アンケートで気になる児童の話聞き、個々の児童をみとれるようにした。
 ○人権月間を設け、各学年に応じた人権に関する授業を行い、伝え合って振り返る機会にした。
 ○児童の委員会活動からの提案で、全校であいさつ運動を行ってきた。

今年度の目標

人とのかかわりを重視し、豊かな人間関係を築くとともに、一人ひとりの児童の自己有用感を育み、自他を大切にすることを育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

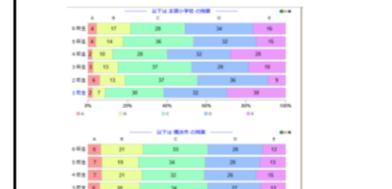
上半期
 ○子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用し、人とのかかわりを増やし、自己有用感を育てたり、自他を尊重する態度を育てたりする。
 ○道徳科の授業の充実。児童の実態に合わせた課題を設定し、「考え、対話する道徳」を目指す。
 ○体験活動の充実。本宿小ラリーを通して、高学年が自覚と責任をもって行動できる実践力や主体性、異学年との協力や思いやりの心を育てる。
 ○児童の支援について共通理解を図り、外部講師による講演会や研修会を通して児童理解、特別支援の充実を図る。
 下半期
 ○下半期も子どもの社会的スキル横浜プログラムを実施、活用し、上半期との変化を分析し、自分づくり、仲間づくり、集団づくりに生かす。
 ○体験活動の振り返り、充実。本宿小ラリーを経験を活かし、スマイルスポーツフェスティバルを通して、高学年が自覚と責任をもって行動できる実践力や主体性、異学年との協力や思いやりの心を育てる。
 ○確かな人権感覚・意識の育成。人権月間を通して人権について意識し考える時間をつくり、人権教育の充実を図る。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①自分自身の生活や身体のことなどについて見直し改善していくために、特別活動及び保健の授業を通して継続的に意識を高める。②柔軟性や体幹の力を養うために、楽しんだり、意義を理解したりしながら本宿体操に継続して取り組む。
担当	体育・保健部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
 ○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合は高いが、食べてこない児童も一定数いる。○「睡眠時間」が6時間以上とっている児童がほとんどだが、中学年あたりから、6時間未満になる児童が一定数いる。○「1日のPC等の視聴時間」は半数以上の児童が1～2時間程度使用している。
 ○「運動やスポーツの実施状況」では、「ほとんど毎日実施している」児童は2割に満たない。中学年以上は、習い事等で体を動かしている割合が多くなっている。
 ○休み時間は、鉄棒や縄跳び、おにごっこ、ボール遊びなどを動かして遊んでいる児童が増えてきた。
【R3体力テスト 本校(上)と市(下)の総合評価比較】



(2)これまでの本校の取組状況
 ○体育: 双組組んできた。
 ○子どもたちが「玉砕」や「陣取り」に興味をもちながら進めるスマイルスポーツフェスティバルをつくり上げてきた。○パワーアップ月間では、体育委員会の児童を中心に活動を進め、長距離走や長縄などの運動に取り組んできた。
 ○栄養職員、養護教諭と連携した授業を実践してきた。

今年度の目標

○自分の生活や身体のことについて気づいたり、見直したりする活動を取り入れていく。
 ○体を動かすことの心地よさや、自分自身の身体への気づきを促す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○体を動かすことの心地よさや、自分自身への身体への気づきを日々の学習の中でもできるように、学習カードなどを使いふり返る機会をなるべく多く設ける。
 ○体を動かす機会を増やすため、パワーアップ月間(内容未定)の活動を体育委員会中心に企画・運営していく。
 ○横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を児童自身がふり返る時間を設定し、基本的な生活習慣を見直すきっかけをもてるようにする。
 ○体力テストに取り組み、結果を地域や保護者に知らせる。(実際は後期)
 ○朝モジュールの時間を利用して、週1回、高学年と低学年に分けて
 下半期
 ○スマイルスポーツフェスティバルに向けての練習で仲間と力を合わせて運動することの楽しさに気づけるようにする。
 ○全7段階の「なわとびカード」を使用し、スモールステップで力の高まりを実感できる機会を確保する。また、本宿体操の時間も活用し、新しい技ができることの楽しさを多くの児童が味わえるようにする。